「保健医療科学」
第75巻　第5号　予告

特集：生活保護受給者・受給世帯の健康管理支援－地域福祉と保健医療の連携に向けて－（仮題）

生活保護受給者の医療扶助・健康管理支援をめぐる政策動向と取組事例（仮題）…… 小川善之，二見朝子
生活保護受給者の健康課題と被保護者健康管理支援事業の展望（仮題）…… 西岡大輔
健康増進施策・データヘルスと被保護者健康管理支援事業の連動：その意義と具体的連携のあり方（仮題）…… 津下一代
被保護者健康管理支援事業の推進に向けた「データ分析支援ツール」とこれを活用した研修のあり方（仮題）…… 横内瑛
被保護者健康管理支援事業の頻回受診指導における事業担当者と関係者との連携プロセス（仮題）保田江美
生活保護受給世帯における子どもの健康と支援体制の課題（仮題）…… 川内はるな，西岡大輔

編　集　後　記

普段は研究室で測定値と向き合うことが多く，得られた数値が現場でどのように使われるかを想像する機会は多くありません．データは論文になった時点で一区切りがつきますが，それが地域で具体的な支援に変わるまでには，さらに長い道のりがあります．

近年，研究成果を現場の支援につなげることは，より複雑になっています．加熱式たばこなどの新製品は次々と登場し，研究で評価が定まるころには別の製品が出回っていることも珍しくありません．現場では「紙巻たばこから加熱式たばこに切り替えればよいのでは」という喫煙者の問いへの対応が求められ，禁煙補助薬の供給不安も重なって，支援者が手探りで対応する場面が増えています．

研究と実践の間にあるこの距離を縮めるのは，研究と実践の間にあるこの距離を縮めるうえで，人と人との直接的なつながりは重要なのかもしれません．国立保健医療科学院の禁煙支援やたばこ対策に関する研修は，最新の知見を届けるだけでなく，自治体の担当者と研究者，そして担当者同士が直接出会い，互いの課題を持ち寄れる場でもあります．そこで交わされる現場の疑問は，次の研究の出発点にもなります．

本号の編集は，自分の仕事が知見を現場へ届ける道のりのどこに位置するのかを，改めて考える機会となりました．また，ご執筆いただいた先生方が各分野で積み重ねてこられた研究や調査の一つひとつが，禁煙支援を前に進めるうえで欠かせない礎であることも実感しました．本誌が，研修とともに研究と実践の場を双方向につなぐ手立ての一つとなれば幸いです．

（生活環境研究部　戸次加奈江）